

令和2年度 事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人
ワーカーズ・コレクティブ
ケアびーくる

1 事業の成果

- 1) 単独では移動が困難な方々が外出することで生活の質を高められるよう、市民が持つリソースを発揮して互助の精神のもと参加型福祉の実現に務めました。
地域に不可欠なサービスの存続を図るため、参加者の拡大に努めました。

年度当初からコロナ禍の大きな影響を受けた1年でした。誰もが経験したことのない感染症拡大という状況下で、介助付き移動サービスの活動を継続しました。

- 新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない中、年度当初は利用が大きく落ち込みました。感染から利用者もメンバーも守り、安心・安全の確保を図るため、会としての対応を検討しました。マスクやアルコール消毒液の不足、感染の不安のなかどうすれば利用者・ワーカー双方の感染のリスクを避けられるか話し合い、利用者個々の状況に合わせたサービスができないジレンマを感じながらも、緊急事態宣言発令中は院内付添や買物付添などは行わず、送迎のみのサービスとすることを選択し、利用者・関係事業所にはがきでお知らせしました。しかしながら、どうしても必要と判断するケースでは、担当メンバーの承諾の下、付添サービスも行いました。
- 限られた条件のなかで、ニーズにはできるだけ応え、年末年始も休むことなく活動しました。通院・入退院・通学・通所・入所はもとより、買物やリフレッシュ・墓参・花見など様々な利用に応えました。定期的な透析の利用もありました。
- 独居や高齢者のみの世帯など、手厚い支援を必要とする利用者が増えています。ケアマネジャーや地域包括支援センターなどとの連絡を密にとりサービスを進めました。
- 利用者の新規入会・登録者は今年も多くありました。利用拡大に努めるなか、ケアマネジャーほか、在宅支援をサポートする方々に、移動サービスの存在が浸透し、それを必要とする方々が多くおられることの表れであると捉えています。限られたメンバーでの対応は運転会員にも運行管理にも負担がかかり、改めてメンバー拡大が求められます。
- 正会員は3月末現在47名。日々の活動の参加者は27名（内、運転会員20名）です。持込セダンの使用車両登録は15台ですが、実際には利用が限られる車両が増えています。
- 年度末の3月に新たな運転会員が1名、法定の「運転者講習会」を受講し、入会しました。内部研修は来年度から始まります
- 家族の介護や他の仕事などとの掛け持ちのため、常時活動に参加できるメンバーが少ない状況が続いています。また、メンバーの高齢化も進んでおり、腰痛などの故障が

出てきたメンバーもいます。車いすのままの複数体制での階段の上り下りも担当できるメンバーが限られています。事務局に携わるメンバーが1名増えました

- 信号を無視した高校生の自転車の飛び出しにより N-BOX を損傷する物損事故がありました。人身事故はありませんでした。
- 年度前半は利用の落ち込みがありましたが、後半は持ち直してきました。目標には達成しませんでした。多くの利用者のニーズに応えることができました。
- 昨年度に比べ、利用者実数は△80名、利用者延べ人数で△375人、利用総回数で△1,088回と減少しました。内、利用者延べ人数はケア事業で△334人、福祉車両助成事業で△41人でした。

*利用総時間に関しては、料金体系の見直しに伴い利用総時間の計上方法及び単位を変更しているため、前年度までと単純に比較できなくなっています。

2) 利用しやすい移動サービスを実現するため、大和市・神奈川県・国との協働や他団体・他機関との連携をすすめました。

大和市とは引き続き協働事業を実施し、利用者など市民の方々に貢献しました。

- 協働事業を開始してから17年目（6期の2年目）となりました。協働事業協定書にもとづいて、大和市からは引き続き、福祉車駐車場（4台分）およびストレッチャー等の保管場所、負担金の提供を受けました。非接触型体温計2台の貸与がありました。
- 毎年の「広報やまと」への掲載のほか、「出張！ボランティア総合案内所」などで情報提供をしていただきました。広報を見ての新規加入もありました。
- 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業を引き続き行いました。必要に応じ、担当課と調整を行っています。
- 市が設置している「大和市地域公共交通会議」にケアびーくるから委員として参加しました。
- 地域福祉の充実に関しては、以下の組織やネットワークに引き続き参加し、連携・交流を深めました。
 - ・ コミュニティ・オプティマム福祉地域協議会 大和
 - ・ 神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会
 - ・ NPO 法人かながわ福祉移動サービスネットワーク
 - ・ 大和市民活動センター

3) ニーズに沿った質の高いサービスが提供できるよう介助研修や共有に努めました。車両運行における利用会員の「安全と安心」を確保するため、安全運転と適切な運行管理に力を注ぎました。

ニーズにきめ細やかに対応できるよう、運行管理者、運転会員で情報共有を行っています。

例年実施している、利用者の「安全と安心」の確保はもとより、新型コロナ感染のリスクから身を守るための取り組みを実施しました。

- 年度当初、マスク不足、消毒薬不足のなか、情報交換、市の動きなどをとらえ、利用者にはマスクの装着・手指の消毒をお願いし、対応を進めました。
マスクや消毒薬の支給は行政からはありませんでしたが、匿名の方やメンバーからのマスクの寄付、かながわ移動ネットを通して県からの手指用アルコール消毒液の提供があり、感謝しています。
- 車を使つての活動はいつも神経を使いますが、コロナ禍でさらに対処が求められました。3密を避ける、車内換気、アルコール消毒、マスク着用等、できるだけの対応をしています。メンバーひとり一人が緊張感を持ち、かつ利用者の方々への共感を持って、活動を進めました。
- メンバーが講習会や研修に参加、あるいはWEB会議に参加し、日頃のワークに生かしました。(安全運転講習会、学習会等)
- 必要に応じ、ストレッチャーやフルクライニング車いすなどの扱い、福祉車両の車いす固定操作の再確認等の研修を個別対応で行いました。
- 運転に関して定年を定めたケアビーくるの内規に則り、70歳の節目で2名、73歳の節目で1名、および数年ぶりで運転に復帰したメンバー1名が外部の運転技能研修をそれぞれ受講し、運転業務を継続しています。
- 冬季の安全確保のため、福祉車3台(てのひら号、ハイエース、N-BOX)にスタッドレスタイヤを装着し、雪の日対策を行いました
- 福祉車4台のドライブレコーダーを再調整し、予備SDを搭載し、扱いについて改めてメンバーで共有しました。
- てのひら号のミラーがこじ開けられることが頻発しました。以前もお世話になったセルスター(株)に相談し、24時間対応のドライブレコーダーを設置していただき原因を特定することができ、対応を進めました。
- 緊急事態宣言下で会場が使えない時はWEB会議を活用し、毎月定例会を開催し、安全で安心のサービス実現に向けて情報交換を行い、きめ細やかなサービス提供に努めました。受講した安全運転研修の内容やヒヤリハットの共有も図りました。
- 運行管理は日ごろから連絡を密にとり、正確かつきめ細やかな対応ができるよう努めました。

4) 今後の会の存続を見据えた方策に引き続き取り組みました。

日々の活動に追われながらも、今後の会の存続を見据えて活動を進めてきました。

平成27年度に取得した、神奈川県指定NPO法人の更新申請を行い、12月には答申を受けました。

- 担い手拡大については、メンバーが常時、新しい仲間づくりを心がけました。メンバー募集のポスター掲示などにより問い合わせはありましたが、参加には結び付きませんでした。

- 年度末の3月、「ケアびーくる通信 No11」を発行しました。改定したリーフレットと共に大和市、利用者、関係事業者などに配布しました。
- 時宜を捉え、リーフレットやチラシを配布しました。
- 前年度から料金体系の見直し作業を市の担当課と進め、今年度から新たな料金体系を導入しています。何よりも利用者にとってわかりやすい料金体系となり、移行もスムーズに行うことができました。
- 福祉車両は、(新)キャラバンが16年目、ハイエースが12年目、てのひら号が6年目、N-BOXが2年目になります。
- 緊急事態宣言下、特に4~6月の事業高は大きく落ち込みました。5月は前年同月比54%でしたが、持続化給付金の条件にはわずかに合いませんでした。
- 多くの助成金制度にチャレンジしました。
助成金申請の際、市の関係部署及び市社協からいただいた推薦状では、ケアびーくる立ち上げ以来の活動を理解し、高い評価の言葉をいただき、メンバー全員の励みとなりました。
一方、コロナ禍で事業運営という面でも世の中に様々な影響が出ている中、助成金へのハードルがさらに高くなっていることを痛感します。
「かながわ生き生き基金」、「W.Co 基金」、「生活クラブ W.Co 支援カンパ金助成」の助成をいただけたことは、大きな助けになりました。互いに仲間を支援しあい、共に活動していく意味と大切さを感じています。
- 年間を通じて経費削減に努めました。
- 中・長期計画は随時見直しました。
- 介護保険制度の介護予防・日常生活支援総合事業について認識を深めました。

5) 理事会と定例会を毎月開催し、参加型で問題解決をはかるとともに、研修と共育に努めます。

- 毎日の定期メールで情報を共有し、こまめな情報交換と問題解決に努めました。
理事会と定例会を毎月開催しました。会場が使えない時は、WEB会議としました。
定例会はメンバー相互の情報交換の場とし、日々の問題点を共有化するとともに、解決に向け話し合いました。定例会の議事録をメールで活動会員全員に送信し情報の提供を行い、共有化を図っています。

6) 地域への情報提供をおこないました。

- 「ケアびーくる通信」は1回発行しました。ホームページの充実やブログならびにフェイスブックの更新に努めました。(ブログ更新: 4回)
- 朝日新聞の桜ヶ丘インフォメーションに広告を掲載して頂きました(掲載: 10回)。
- 市内で行われた認定運転者講習会に講師を派遣しました。

2 事業内容

特定非営利活動に係る事業

① 外出介助等のサービス事業

ア ケア事業

- ・内容 通院入退院、通所通学、買い物等の外出介助および付き添いサービス
- ・日時 通年
- ・場所 大和市および隣接した市区
- ・従事者人員 27人
- ・対象者 移動制約者 251人（のべ利用者3080人）
- ・支出額 9,084,224円

イ 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業

- ・内容 大和市福祉車両所施事業対象者における外出介助及び付添サービス
- ・日時 通年
- ・場所 大和市および隣接した市区
- ・従事者人員 27人
- ・対象者 移動制約者 67人（のべ利用者601人）
- ・支出額 2,476,418円

② 地域に向けて研修、啓発をはかる事業

- ・内容 ケアびーくる通信の発行（年1回）
ホームページの充実、ブログ更新（年4回）、facebookの更新
新聞折り込みチラシへの広告掲載（年10回）
- ・日時 随時
- ・場所 大和市内
- ・従事者人員 7人
- ・対象者 移動サービスを受けたことのない方および、そのご家族
- ・支出額 46,254円

③ その他、この会の目的を達成するために必要な事業